

2020年8月30日(日)
福山バプテスト教会主日家庭礼拝の手引き

1 礼拝の進め方

礼拝プログラムは次のとおりです。このプログラムに沿って、賛美を献げ、祈り、聖書を読みましょう。宣教の部分は説教を読みましょう。

2 礼拝プログラム

聖書1 新約聖書 ローマの信徒への手紙6章17～23節

賛美 新生544 ああ嬉しわが身も

(または) 新生301 いかなる恵みぞ

個々の祈り *自由にお祈りを献げましょう

主の祈り

聖書2 新約聖書 テサロニケの信徒への手紙一5章16～24節

宣教(向山三千代) 「キリストを第一として生きる」

献げもの 新生658 このささげものを(B) 又は 新生51 かみさまありがとう

*賛美の後に、感謝の献げものとお祈りを献げましょう

賛美 新生讃美歌 674 父み子 聖霊の

黙 禱

3 説教「キリストを第一として生きる」

■メメント モリ 皆さんは「メメント モリ」という言葉を御存じですか。先日、ある人と話をしているこの「メメント モリ」という言葉が話題になりました。ラテン語で「死を忘るなかれ」「自分がいつか必ず死ぬことを忘るな」という意味だそうです。古代ギリシャ、中世ローマ、そして現代に至るまでヨーロッパ諸国間で繰り返されてきた覇権争いの歴史の中で生まれた言葉です。今日は勝利に酔いしれて凱旋しても、明日はさらに強大な敵国に侵略されすべて滅ぼされてしまう命の危機。命をつなぎ行くことの厳しさ。そしてそれがキリスト教の教え・死生観と相まって、今でもこの言葉は、ヨーロッパ系の国々・人々の生活習慣、文化、日々の生活の根底にある死生観だと言えます。今、全世界がコロナ禍の只中であって、改めてこの「メメント モリ」という言葉が私たち一人一人の胸に迫って来ているように思います。「メメント モリ」の言葉が投げかける重

要さは、死という人生のゴールをしっかりと見据えてこの命を生きるということであり、今を、この一瞬を、この一日を、どのように生きるかということに他なりません。死を見つめ、命を生きる者として日々の生活をどのように生きたらよいのでしょうか？ 私たち一人一人に命を与え、生かしてくださっている愛の神様にその答えを聴きましょう。

■**愛の命令** テサロニケ信徒への手紙第一 5：16～18をお開きください。このみ言葉は、私たちに対して、使徒パウロを通して語られた神様からの愛の命令として理解することができます。キリスト者の基本的な信仰姿勢についての指針です。この手紙が書かれた社会的状況は、厳しいクリスチャン迫害です。迫害の只中にあり、さらに大きな迫害が差し迫っていました。厳しい迫害の只中にあるテサロニケの信徒たちへ当てて書かれたパウロからの手紙です。テサロニケの教会はパウロの伝道によって生まれた教会です。パウロ自身、度々命の危機に遭いながら、苦闘しながらの伝道でした。そのような状況の中で書かれた手紙であることを心に留めて、16節、17節、18節を神様に聴いていきましょう。神様が私たちに強く望んでおられる三つの愛の命令となる言葉が書かれています。「喜びなさい」「祈りなさい」「感謝しなさい」です。そしてこの三つに共通する言葉があります。All（いつも、絶えず、どんなことにも）という完全さを表す言葉です。まず「いつも喜んでいなさい」から聴いていきましょう。

■**「いつも喜んでいなさい」** 16節「いつも喜んでいなさい。」神様、それはムリです！
いつも喜んではいられません。悲しい、つらい時だってあります。と言いたくなりますが、ここで言う「喜ぶ」という意味はいつも明るい、いつもニコニコしているという外面的なことではありません。私たちの心がいつもイエス様に向いている、その心の姿勢のことを言っています。迫害の只中にあったパウロが「艱難をも喜んで」「キリストのゆえに迫害されることを喜び踊る」と言う、心の姿勢です。

■**「絶えず祈りなさい」** 17節「絶えず祈りなさい」とは、24時間中休むことなく、口を動かして祈り続けなさいという意味ではありません。そのような外面的なことではなく、絶えず心を神様に向けている心（内的）の状態を言います。神様を第一とするクリスチャンの祈りの生活は、教会、職場、家庭、近所付き合い等によって分断、変化していくものではありません。祈りはクリスチャンの呼吸、そして神様との会話といわれます。私たちの日々の生活、生き方そのものが神様への礼拝なのです。

■**「どんなことにも感謝しなさい」** 18節「どんなことにも感謝しなさい（新共同訳）」「すべての事について、感謝しなさい（新改訳）」アー！これもムリです！感謝できないことだってあります、と言いたくなります。み言葉はここで、感謝できることだけでなく感謝できないと思えることにも、すべてのことに感謝しなさいと言っています。私たちにとってマイナスと思えるようなことであっても、神様にとってそれがマイナスであると

は限りません。神様は「万事を益としてくださる方」、「神は愛である」愛そのものの方。愛の神様がなさることはすべて愛であり、私たち一人ひとりに対していつも最善をされます。

■「キリスト・イエスの内にある」 この三つの神様の愛の命令、「喜びなさい」「祈りなさい」「感謝しなさい」は一つずつが独立してバラバラにあるのではなく一つの事柄です。18節bをごらんください。「これこそ」という言葉、これは単数形です。This is です。この三つの言葉は互いに関連しながら一体となって、クリスチャンの生き様、日々の生活の歩み、信仰姿勢となります。なぜ All (すべてにおいて)「喜ぶ」「祈る」「感謝する」ことが、私たちに可能なのか？私たちの生き様、日々の生活のあり方となれるのか？その答えが18節bのみ言葉です。「キリスト・イエスにおいて (新共同訳)」、「キリスト・イエスにあって (新改訳)」、「キリスト・イエスの内にある」とも訳されます。「キリスト・イエスの内にある」が今朝のメッセージのキーワードであり核心となる言葉です。キリスト・イエスの内にあるのみすべてが可能になります。キリスト・イエスの内にいなければすべては無です。命の光はありません。アダムとエバが罪を犯して以来、私たち人間は罪と死の世界へ堕ちました。そこには命への希望はありません。愛の神様は、罪の中に死んでいく私たちをそのまま見過ごすことができませんでした。徹底した神様の愛は、私たち一人ひとりの命を決してあきらめることができません。わたしたちを死から救い、命を与えるために、神様自らが人間の姿をとってこの地上に来てくださいました。その方がキリスト・イエス様です。全く罪のない神イエス様が、私たち人間のすべての罪を背負い、私たちの身代わりとなって十字架にかかり死なれました。イエス様の十字架の死によって、私たちのすべての罪は許されたのです。そしてイエス様の死と復活によって、私たちは「キリスト・イエスの内にある」、新しい命に生きる者へと変えられました。あなたが、私が、私たち一人一人が、生きる道は、この「キリスト・イエスの内にある」以外にありません。イエス・キリスト様を救い主と信じることによって、死ぬはずの私が、あなたが、イエス様という命のぶどうの幹に接ぎ木され、イエス様の命によって生きる者になりました。もう自分の努力や力や頑張りで生きる必要はありません。イエス様に接ぎ木された瞬間から、今度はイエス様の豊かな命が私たちの内に流れあふれるようになります。イエス様と一体となり、イエス様の内にある、いつも喜び、絶えず祈り、どんなことにも感謝する恵み溢れる日々の生活へと変えられていきます。イエス様を救い主と信じる救いの恵みは、ご自身の子供である私たち一人ひとりへの神様からのプレゼントです。代価は、イエス様の十字架の死と復活によってすでに支払われています。愛の神様から差し出された愛のプレゼントを、感謝して受け取るだけです。死から永遠の命に至る救いのパスポート、それが神様からのプレゼントです。すでにこのパスポートを受け取っておられるクリスチャンの方々は、神様の愛の豊かさ、何にも替え難い救いの恵みの確か

さをさらに味わいながら日々生活していけますように願っています。いつも、どんな状況でも、絶えず、キリストを第一とした生活が神様の望みであり、喜び、感謝、祝福の土台です。

■狭い門から メメント モリ。私たちはだれもが平等に、必ず死を迎えます。死の入口には二つの門があります。一つは広い門、もう一つは狭い門です。広い門はだれでも入り易く、簡単に入って行くことができます。しかし、よくよく目を凝らして見ると、入り口付近は明るく見えたのに内奥は真っ暗です。もう一つの狭い門は、入り口は狭いけど、奥に行くほど明るく豊かに広がっています。私たちは、必ずどちらかの門を入らなければなりません。このコロナ禍で、全世界の多くの方々が亡くなりました。亡くなられた御本人様、御遺族の方々、治療に関わられた方々、今なお闘病されている方々を思う時、言葉を失います。死は人を選びません。必ずやってきます。私たちはその時を選ぶことができません。今、この命ある時に、しっかりと死を見つめ、神様からの救いのプレゼントを受け取りましょう。そして、いただいた命のパスポートをしっかりと握りしめて、与えられた尊い日々を、イエス様を第一にこの方を喜び、感謝し、祈りながら共に歩んでいきましょう。祈。